

JR東日本労働組合千葉地方本部 業務部NEWS No.2

発行責任者：業務部 2021.6.17

申4号 団体交渉開催！

～「電気部門の変革2022の検証」に関する申し入れ～

JR東日本労働組合千葉地本は6月10日、支社204会議室において「申4号」の団体交渉を行いました。

「電気部門における変革2022」の施策実施から2年が経過し、現在3年目を迎えています。本施策においてパートナー会社（P社）に出向した社員の声・現場社員の声が多く寄せられ、現在までの成果・課題について会社と議論を重ねました。

「一定の成果はあったものの、まだ検証段階のところもあり具体的な成果を示すことはできないが今後も技セ・MC一体となって進めていくこと。検証結果が出次第、現場社員へ示していく」という会社回答を確認しました。

私たちはこれからも「組合員の声」を大切にし、交渉の武器として会社と議論していきます。

交渉の要旨は以下の通りです。

1. 本施策の成果と課題を明らかにすること。
2. 本施策の3本柱の進捗状況を明らかにすること。

〈会社回答〉

「技術的な判断業務に注力」する働き方の実現することを目的に「設備のシステムチェンジ」「スマートメンテナンス」「工事の機械化・効率化」を着実に進めてきたところであり、一定の成果があったと認識しているところである

3. 今後の電気部門における将来展望を明らかにすること。

〈会社回答〉

引き続きパートナー会社と連携し、更なる業務のスリム化等にも取り組み、生産性の高い業務執行体制を目指していく考えである。

組：「電気部門における変革2022」は今年で2年経過して3年目に入っている。私たち東日本ユニオンの組合員も本施策を精力的に担ってきている。会社回答にもあるように「一定の成果」があるのであれば具体的に議論していきたい。

会：スマートメンテナンスとして電車線モニタリング、ボンドモニタリングを行ってきている。またBIMを使用した効率化をしてきている。

工事の生産性向上で小規模工事の限度額を引き上げた。特区制度で一部の書類を省略、財産除去調書をやめたこと。一般工事より小規模工事にしてきた。それによって変電関係では、ほぼ小規模工事でまかなえるようになった。電車線モニタリングは、開始から2ヶ月しか経っていないので今後も検証する必要がある。

信号は「3本の矢」のシステムチェンジとして1つ目のATACS等の導入箇所については具体的に決定していない。現在、八高線に導入されているので今後、見学会等をしていきたいと考えている。2つ目のスマートメンテナンスはボンドモニタリングが現在試行中で、まだ検査の省略ができていない。3つ目のBIMの活用や電子契約等はこれから取り入れていく。

組：この「変革2022」を出向先で2年担ってきた者からすると「業務が減って作業効率は良くなった」と感じる事ができなかったのが本音である。それどころか設備検査が増えていることを実感してきた。現場では「どこがスマートなんだ」という声が多く出ている。一方でBIMについては打合せを電子系で行うことで、以前のようなP社との直接打合せ（超勤でのやりとり）が省略になるなど、良くなったという声も出ている。

このように良い点もあるが全体を通してみると「スマートとは言うが、一般業務については業務量が増えている」と感じている社員も多い。もっと具体的にスリム化する業務などあれば伺いたい。

会：BIMは現場でも評価を頂いている。スマートメンテナンスについては成果が出るまでもう少し時間がかかる。設備検査が増えたというのはIR特発であり、稼働すれば足ロスは回避できる。長い目で見て頂ければ良くなると考えている。また、樹木伐採にはどうしても時間がかかる。

組：工事の効率化で超勤データが手元にないので働き方改革ができていないのか疑問だ。2年経過しているので検証したい。何が減って何が増えているのか、こちらには見えてこない。どのように考えているのか。

会：2年前と現在の比較をしなければならないが、現時点で具体的にデータを示せるところまでいっていない。しかしながら、積算業務や現場調査業務は確実に減少している。P社の高所作業車等も取り入れてきている。

施策を進めていくなかで新たなシステムが生まれて、そこに一時的に費やされるのは致し方ないが課題としてそこを「どう平準化していくか」これから検証していく。現在、施策を進めているなかで業務が一時的に増えてしまうことは致し方ないと思う。

組：工事は積算と現場調査に一番時間を使う。現場はいかにシステム化していくかをしている。はじめの1年目は産みの苦しみではないが大変なのは理解する。しかし、2年目以降は多少でも効率良くなっていないと疲弊してしまう。だから今回「進捗状況はどうなっているのか」と聞いている。現場とすればBIM・積算・各モニタリングがしっかり稼働すればもっと良くなる。早期導入してもらえれば助かるし、モニタリングで言えば 画像を見て良し悪しの判断ができる。現地にいかない分、他業務にまわせる。しかし、2年経過しても具体的に示せるデータがない・検証中というのは残念だ。本社も「変革の速度を早める」と言っているので、精度を上げていく必要があるのではないか。

会：システムチェンジは大きく変わっていない。スマートメンテナンスはP社の働き方改革として検修費の削減を考えている。変革のギアアップとしてクレモスの検査周期見直しを考えている。起動回路の検査については不正落下等の事故があるので慎重にならざるを得ない。工事の機械化・効率化は積算の削減。またリモート判定を取り入れていく。

ポンドモニタリングの検証に関しては現在、膨大なデータの中から良否判定をせざるを得ない。

組：ポンドモニタリングについて良い状態の画像と悪い状態の画像から照らし合わせて判定するのは以前から承知している。保線からのデータを活用するなどできないのか。

会：保線と信号では判定が違う。AI判定後、人の目で再度行なっている。降雨等の条件で変わってしまう。精度が上がってくれば足ロスはなくなる。

組：精度を上げるにはどれくらいかかるのか。

会：まだ精査している段階なので、具体的にどれくらいとは今は答えられない。画像ひとつとっても安全を蔑ろにできない。今は検証中なので設備部の方で明確になれば示していく。

組：モニタリングが今回のひとつの目玉。現場の社員みんなが注目している。このモニタリングを千葉～上総一ノ宮だけではなく、他線区に広げていくためのものなので、しっかりと使えるものにしていかないと意味がない。電車線モニタリングはどうか。

会：検測車からの画像は鮮明。現場からは「こんなに見えるのか」という意見もある。まだまだ始まったばかりなので今後、理解を深めていく。

組：変革2022について経営側も努力しているのは伝わっている。しかし、聞いていて具体的に検証がされていないこと。「検証は大事」と言っていたが、いつまでに（検証を）やるのか疑問に思う。変革2022が示されて2年前から動いていて、モニタリングは2年経ってまだ画像が悪い。スマートメンテナンスするために「いつまでに・どうするのか」が現場社員に伝わっていない。課題の克服に向けてどうするのか社員と議論できていないのが今の現実だと思う。会社が「変革のスピードを上げる」といっても、現場で働く私たちと、支社の現実に即したスピード感が重要になる。3年後まで検証していても困る。課題克服のために現場社員の声に耳を傾けていただきたい。

会：安全が担保されないと施策のスピードアップはできないことは、同じ認識である。この間の議論を踏まえて回答させていただく。支社として今後も現場と意見交換をおこなっていく。

以 上